

第2回 大和御所道路 (橿原北IC～橿原高田IC) 植栽検討委員会

日時: 令和3年6月24日(木)

場所: 奈良国道事務所

資料3

1. ワークショップ結果の報告

植栽検討ワークショップの概要

大和御所道路の植栽に関する近隣住民の意向を把握するため、計4回の予定で植栽検討ワークショップを開催しています。現在、第2回まで開催しました。

STEP 4

植栽整備基本方針(案)

令和3年12月頃開催予定



STEP 3

植栽整備の理想像

令和3年9月頃開催予定



STEP 2

植栽が担う新たな役割

令和3年3月25日開催



STEP 1

現況植栽の課題抽出

令和3年2月26日開催

開催済み

2

各回の概要

○第1回植栽検討ワークショップ

(1) 日時：令和3年2月26日（金）

(2) 意見交換テーマ

①現況植栽帯の良いところ

②現況植栽帯の悪いところ

③これからの植栽に求めること

(3) 参加者

各地区の自治会長等



○第2回植栽検討ワークショップ

(1) 日時：令和3年3月25日（木）

(2) 意見交換テーマ

①道路植栽が担う新たな役割について（住宅地沿い・耕作地沿い）

(3) 参加者

各地区の自治会長等



3

ワークショップで得られた主な意見

【新たな植栽帯について】

- 住宅地沿いでは、**四季の変化が感じられ生活に潤いを与える**（**薫風が香り、四季を感じられる・花の咲く樹木や色づく樹木等による美しい見た目・生活の楽しみになる空間等**）一方で、**生活環境の保全**（**ゴミが投棄されない・騒音の低減・車の存在を感じさせない等**）や**交通安全性の確保**（**見通しの確保等**）、**防災機能の向上**（**火災時の延焼防止等**）の役割が求められている。
- 耕作地沿いでは、**田園景観との調和、農作物の保全等**の役割が求められている。
- 対象区間は、耕作地が広がる区間が少ないため、**沿道土地利用による区分は不要**と考える意見もある。

4

ワークショップで得られた主な意見

【現況植栽帯について】

- 身近に**緑を感じられること、騒音や排気ガスの軽減等**が良いと感じている。
- ゴミの投棄、交通面や防犯面での安全性の低下、地域の分断や発展の阻害**に影響している点、一年を通して**植栽の変化を感じられない点、維持管理不足の状況**を改善すべきと感じている。
- 植栽帯が**動物の住処**となっていることを良いと感じる一方で、**農作物への被害や鳥害等**を問題と感じている。

5

2. 植栽の理想像 (基本理念(案)・基本的考え方(案))

上位・関連計画の基本理念

大和区間全体（大和御所道路植栽検討懇談会）

『大和の歴史・自然を活かしたみどり空間の創造』

隣接区間（保津西交差点～小槻町交差点）
の基本理念
（平成15年度 緑の新生創造協議会）
『みんなで育てる緑のやまと大路』

WS意見

- ・四季の変化による生活への潤い
- ・生活環境の保全 ・安全性の確保
- ・周辺景観との調和

委員会意見

- ・今後の社会環境の変化への配慮
- ・今後の土地利用の変化への配慮

検討対象区間の基本理念（案）

対象区間は、592年～710年の一世紀余りの期間、歴代の皇居が営まれ、仏教分化が栄えた歴史ある地域に位置します。

⇒大和区間全体の基本理念より

さらに、対象区間の現況植栽は、そうした地域にふさわしい樹種を中心に、地域住民との協働により整備されてきた、地域とのつながりが深いものとなっています。

⇒現況植栽帯の設置経緯（第1回委員会資料2で提示）より

新たに整備する植栽は、これから数十年先の未来に残るものとなるため、こうした大和の歴史を伝える重要な役割を果たしながら、これまでに築いてきた地域とのつながりを継続していく必要があります。

⇒第1回委員会におけるご意見より

～基本理念（案）～

大和の歴史を未来につなぐ地域に愛される緑の創出

8

上位・関連計画の基本的考え方

大和区間全体の基本方針（大和御所道路植栽検討懇談会）

- ①奈良の歴史を現代に伝える樹種の導入
- ②道路構造に応じた緑化手法の導入
- ③沿道土地利用に合わせたデザイン
- ④ドライバーの安全性、快適性の確保
- ⑤騒音、排気ガスの影響の緩和
- ⑥地域住民に親しまれるみどり空間の創出

隣接区間(保津西交差点～小槻町交差点)基本方針 (平成15年度 緑の新生創造協議会)

- ①全国に誇れる道路
- ②交通安全に配慮
- ③沿道土地利用を考慮した区分
- ④維持管理

WSにおける意見

委員会における意見

9

検討対象区間の基本的考え方（案）

①奈良の歴史を未来に伝える樹種の導入

奈良にふさわしい樹木(潜在自然植生種等)を植栽し、奈良らしい緑を創出する。

②四季の変化を感じられる空間の創出

景色や香りで四季を感じられ、生活に潤いを与える緑を創出する。

③地域住民の生活の質を高めるみどりの創出

地域住民の生活環境の質の向上に寄与する緑を創出する。

④道路構造に応じた緑化デザインと区間全体での統一感の確保

道路構造が変化する本区間では、道路構造に応じた配植を行いながら、将来の沿道土地利用の変化にも柔軟に対応できるよう、区間全体での統一感を確保した緑を創出する。

⑤維持管理の省力化に資する植栽の整備

適切な維持管理の実現に向けて、メンテナンス手間の少ない植栽帯を整備する。

10

検討対象区間の基本的考え方（案）

①奈良の歴史を未来に伝える樹種の導入

奈良にふさわしい樹木(潜在自然植生種等)を植栽し、奈良らしい緑を創出する。

大和区間全体の基本方針

①奈良の歴史を現代に伝える樹種の導入

奈良の歴史、自然といった資産の一つには万葉集とその歌に歌い込まれた草木などの植物、即ち万葉植物が挙げられ、これらの樹種を導入することにより、奈良の自然を演出する。

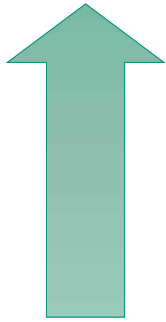
(出典：大和御所道路植栽検討懇談会)

11

検討対象区間の基本的考え方（案）

②四季の変化を感じられる空間の創出

景色や香りで四季を感じられ、生活に潤いを与える緑を創出する。



WSにおける意見

- ・生活の楽しみになる空間
- ・美しい見た目(花の咲く樹木、色のある樹木)
- ・薫風が香り、四季を感じられる

大和区間全体の基本方針

⑥地域住民に親しまれるみどり空間の創出

地域風土に受け込むようなみどりを導入し、高架橋の印象を和らげるとともに、随所にアメニティの部分を取り入れ、地域住民が愛着を感じ、歩いて楽しめるようなみどりの空間を創出する。

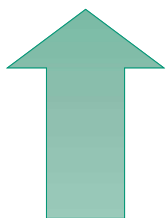
(出典：大和御所道路植栽検討懇談会)

2

検討対象区間の基本的考え方（案）

③地域住民の生活の質を高めるみどりの創出

地域住民の生活環境の質の向上に寄与する緑を創出する。



WSにおける意見

- ・ゴミが投棄されない
- ・見通しの確保
- ・騒音の低減
- ・車の存在を感じさせない

大和区間全体の基本方針

④ドライバーの安全性、快適性の確保

植樹帯を設置することにより、歩道と車道を分離し、歩行者・自転車の安全性を確保する。交差点付近の緑化は見通しを確保する。また、ドライバーの視点から見ても潤いや楽しさの感じられるみどりのデザインとするため、ランドマークツリーや周辺景観と合わせたゾーン毎の樹木の配植等を検討する。

⑥地域住民に親しまれるみどり空間の創出

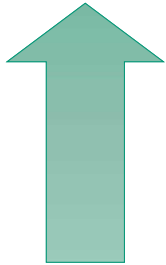
(出典：大和御所道路植栽検討懇談会)

3

検討対象区間の基本的考え方（案）

④道路構造に応じた緑化デザインと区間全体での統一感の確保

道路構造が変化する本区間では、道路構造に応じた配植を行いながら、将来の沿道土地利用の変化等にも柔軟に対応できるよう、区間全体での統一感を確保した緑を創出する。



委員会における意見

- ・現況植栽が整備された当時に重要視された観点と今後重要視すべき観点は変わってくる。長期的に考えると、水素自動車や電気自動車等の普及により、騒音や排気ガスの問題も変わってくる。新しい時代に入り、道路のあり方も変化する中、先を見据えた議論が必要である。
- ・今後の植栽整備には、過去、現在、将来を見据えた検討が必要である。

大和区間全体の基本方針

②道路構造に応じた緑化手法の導入

大和道路の構造は一般道や副道の構成の違いなどによって植栽帯の構成が異なる他、高架、擁壁の有無など空間構成が異なる。一般的な道路植栽技法に加えて、高架下の緑化など、道路構造に応じた多様な緑化技術を駆使したみどりのデザインを進める。

(出典：大和御所道路植栽検討懇談会)¹⁴

検討対象区間の基本的考え方（案）

⑤維持管理の省力化に資する植栽の整備

適切な維持管理の実現に向けて、メンテナンス手間の少ない植栽帯を整備する。

WSにおける意見

- ・維持管理不足の改善が必要

委員会における意見

- ・維持管理に係る人手や予算が限られているが、今後の植栽整備においては維持管理の視点も配慮すべきである。

3. アンケート実施方針（案）

沿道住民アンケート調査の概要

新たな植栽整備に対する沿線住民の幅広いニーズを把握することを目的に、アンケート調査を実施します。

【調査概要】

- 調査期間：令和3年7～8月（予定）
- 調査対象：対象区間沿線4町（小槻町、大垣町、土橋町、曾我町）の住民
- 調査手法：ポスティング配布、郵送回収（WEBアンケート併用）
- 配布部数：1,000部
- 回収目標：400部



- ・事前に回覧板により案内チラシを配布
- ・案内チラシにアンケートサイトにつながるQRコードを記載することにより、WEBアンケート調査を併用

沿道住民アンケート調査の調査内容（案）

①ワークショップでの意見交換内容

これまでのワークショップで意見交換したテーマ（現況植栽の良い点、改善すべき点）について、幅広い意見を聞きます。

②新たな道路植栽の理想像

新たに整備する道路植栽に求める理想的な姿（役割）を把握します。さらに、イメージの異なる複数の植栽デザインを示すことで、沿道住民が考える望ましい植栽のイメージ像を把握します。

沿道住民アンケート調査の設問内容（案）

番号	設問	回答方式
回答者情報		
Q1	年代	選択肢方式
Q2	性別	選択肢方式
Q3	居住地（自治会）	選択肢方式(その他欄で自由記述)
①ワークショップでの意見交換内容		
Q4	現況植栽の良い点	選択肢方式(その他欄で自由記述)
Q5	現況植栽の改善すべき点	選択肢方式(その他欄で自由記述)
②新たな道路植栽の理想像		
Q6	今後の植栽の理想像(役割)	選択肢方式(その他欄で自由記述)
Q7	望ましい配植デザイン	配植デザインや色合いの異なる数案のイメージ図を提示した選択肢方式

アンケート調査票

大和御所道路（橿原北IC～橿原高田IC）
植栽整備に関するアンケート調査

以下の設問について、ご回答ください。

*必須

Q1. あなたの年代をお答えください。*

- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70歳以上

Q2. あなたの性別をお答えください。*

- 男性
- 女性

20

アンケート調査票

Q3. あなたの居住地（所属自治会）をお答えください。*

自治会に所属されていない方は町名を選択してください。また、選択肢以外に居住されている場合、その他欄にご記入ください。

- 小槻町
- 東小槻自治会
- 南小槻自治会
- 大垣町
- 土橋町
- 西土橋自治会
- 北妙法寺町
- 曾我町
- 真菅東自治会
- 真菅町自治会
- 共栄住宅自治会
- 真菅丘自治会
- 真菅メロディータウン自治会
- その他：（自由記述欄： _____ ）

21

アンケート調査票

Q4. 榿原バイパスの現況植栽について、あなたが良いと感じる点をお答えください。*

あなたが良いと感じる点を全てお答えください。また、その他に何かございましたら、その他欄に自由にご記入ください。

- 緑が多い
- 動物が多く生息している
- 走行車両を感じない
- 騒音が軽減される
- 振動が軽減される
- 排気ガスが軽減される
- その他: (自由記述欄 : _____)

アンケート調査票

Q5. 榿原バイパスの現況植栽について、あなたが改善すべきと感じる点をお答えください。*

あなたが改善すべきと感じる点を全てお答えください。また、その他に何かございましたら、その他欄に自由にご記入ください。

- 四季を感じられない
- 交通面での安全性が低下している
- 防犯面での安全性が低下している
- ゴミの投棄が多い
- 地域のつながりを分断している
- 沿道の発展を阻害している
- 鳥害が多い
- 植栽帯を住処とする動物が農作物へ影響を及ぼしている
- 適切な管理がされていない
- その他: (自由記述欄 : _____)

アンケート調査票

Q6. これから新たに整備する植栽帯について、あなたが理想とする姿（役割）についてお答えください。*

あなたが理想とする姿（役割）を全てお答えください。また、その他に何かございましたら、その他欄に自由にご記入ください。

- 美しい見た目や香りで生活に潤いを与える植栽帯
- 花や紅葉等で四季を感じられる植栽帯
- 1年を通して豊富な緑量のある植栽帯
- 周辺景観と調和する植栽帯
- 全体的に統一感のある植栽帯
- 奈良らしい樹木の多い植栽帯
- 動物が生息する植栽帯
- 落葉等による転倒リスクの少ない植栽帯
- 騒音を軽減する植栽帯
- 振動を軽減する植栽帯
- 排気ガスを軽減する植栽帯
- その他：（自由記述欄： _____ ）

24

アンケート調査票

Q7-1. これから新たに整備する対象区間全体の植栽帯について、あなたが望ましいと思うイメージをお答えください。*



- イメージ①：対象区間全体で低木のみ開放的なイメージ



- イメージ②：対象区間全体で低木に一定間隔で少し背の高い樹木があるイメージ



- イメージ③：対象区間全体で低木主体に少し密に背の高い樹木があるイメージ

25

アンケート調査票

Q7-2. これから新たに整備する植栽帯について、あなたが望ましいと思うイメージをお答えください。*



イメージ①：落葉等による歩行者への影響に配慮しながら、花や紅葉等により四季の変化が感じられる落葉樹主体の植栽帯



イメージ②：維持管理手間が少なく、一年を通して緑が感じられる常緑樹主体の植栽帯

26

4. 地域とのつながりの継承に向けた検討案

27

検討案① 植栽整備時の植樹活動

現況植栽と同様に、新たな植栽を整備する際に、真菅小学校、真菅北小学校の児童や関係者に植樹をしてもらう。

検討案② 市民花壇の整備

区間内の住宅地に近い歩道沿いの植栽帯において、近隣住民が植栽の管理をする市民花壇を整備する。

検討案③ 健全な樹木の移植

対象区間内の樹木の中から健全な樹木を選定し、植樹活動に参加した真菅小学校、真菅北小学校の敷地内や近隣の公園等に移植する。

検討案④ 記念品の製作

対象区間内で伐採した樹木を活用し、真菅小学校と真菅北小学校の児童のための記念品を製作する。



今後、ワークショップで近隣住民の意見や要望を把握し、可能な方策を検討していく。